

## 新潟県内の市町村の3歳児健康診査への屈折検査機器導入について —新潟県燕市を中心に—

多々良 俊哉

新潟医療福祉大学 医療技術学部 視機能科学科 | 視能訓練士

### ・新潟県内初の3歳児健康診査への屈折検査機器導入について

2022年度に厚生労働省が、3歳児健康診査(以下、3歳児健診)への屈折検査機器導入のための費用助成を開始しました。その結果2024年8月現在、新潟県では屈折検査機器の購入費用の1/2を国、1/4を県、1/4を市町村が負担しています。

県内で最も早く3歳児健診に屈折検査を導入したのは燕市です。燕市は新潟県のほぼ中央に位置し、人口は7.6万人程度、洋食器の産地として有名な市です。2018年に燕市医師会から本学へ弱視の早期発見のための健診プログラムについて相談がありました。保健師と視能訓練士とで打ち合わせを重ねた結果、視能訓練士が健診に加わり、まずは本学で所持するSpot™ Vision Screener(SVS)を保健センターへ持参し測定することとなりました。新潟県内初の3歳児健診への視能訓練士の参加、屈折検査導入は県内で注目を集め、その内容が新聞に掲載されました(新潟日報;2019年6月12日掲載)。

その後、燕市の3歳児健診のプログラムは段階的に改変されました。視力検査については、家庭での健診に加えて健診会場での視力検査が追加されました。屈折検査については、市議会にてSVSの購入が決定し、本格的に健診への導入となりました。これらの改変によって、要精密検査となった児の数は3名(1.3%)から38名(11.3%)と増加しました。なお、3歳児健診における視覚健診の精度向上に向けた取り組みに関

して2020年度には、保健師が中心となり地域保健の推進において成果を上げている活動を顕彰する「チヨダ地域保健推進賞」を受賞しました。



図1. 燕市の三歳児健診における視覚健診会場の様子

現在燕市では、3歳4か月児を対象にして月に2回3歳児健診が行われており、1回あたりの受診数は20人程度となっています。SVSは比較的新しい機器であり得られる屈折度の正確性や再現性について様々な報告がなされていることから、燕市では現在のところ全員に2回の測定をおこなっていま

表 1. 新潟県燕市における三歳児健診での屈折異常によるカットオフ値

	不同視	乱視	近視 (等価球面值)	遠視 (等価球面值)
2023年6月まで*1	1.00	1.75	1.25	2.50
2023年6月以降*2	1.50	2.00	2.00	2.50

\*1 SVS に内蔵されている屈折異常判定基準

\*2 日本弱視斜視学会, 日本小児眼科学会が推奨する基準

す<sup>2)</sup>。また, SVS のカットオフ値は表1のとおりであり, 2023年6月に日本弱視斜視学会・日本小児眼科学会推奨の基準値に変更となりました。

#### ・屈折検査機器導入の波及について

2018年に燕市が初めて3歳児健診へ屈折検査を導入したことを受け, 2019年には人口7千人程度の弥彦村, その後人口4.4万人程度の五泉市から, 本学に対して屈折検査導入について協力要請がありました。そのため新潟県視能訓練士会と連携し, 協力依頼を受けた市町村の3歳児健診へ視能訓練士が参加する体制を構築しています。

また, 2022年度末には新潟県福祉保健部と本学との連携で, 3歳児健診に従事する予定の視能訓練士や保健師, 看護師を対象とした屈折検査に関する講習会を開催しま

した。講習会に参加した保健師からは「屈折検査と視力検査の両方を実施する意義を理解できた。」などといった感想をいただきました。機器を適切に使用することで, 弱視の児が1人でも多くの発見されることを願います。

#### 参考文献

1) Ishii M, et al: Vision examination for 3-year-old children in Tsubame city: Transition of the health checkup program and accuracy of the screening tests. Niigata Journal of Health and Welfare 19: 57-66, 2019.

2) 旭 香代子, 他: 三歳児視覚健診における SpotTM Vision Screener の測定値の再現性. 日視会誌 49: 211-216, 2020.